



新年のごあいさつ



副院長・看護部長
久々湊 智予

新年あけましておめでとうございます。

昨年も新型コロナウイルス感染症に振り回された一年でした。

皆様のご協力のおかげで無事一年間迎えられたことに深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症になるのはいつか、対応はどうなるのか、まだ先が見えない状況です。このような状況から人員確保がままならず、年明けから病床を減少して運用しなければならない状況に陥っております。人員を確保するために、派遣やコンサルタントを介しての紹介会社の使用、職員による紹介制度を導入しています。

今年の病院のテーマは「原点に戻る」です。30周年目の節目としてふさわしいテーマです。看護部も病院のテーマと一緒に取り組んでまいります。

2023年の卯年は、今までの数年から大きく「飛躍」し、私たちの生活が大きく「向上」する年になってほしいと思っています。

皆さまの協力を宜しくお願いいたします。





急変時シミュレーション

回復期リハビリテーション病棟 福園

回復期リハビリテーション病棟の病棟目標は「安全・安心・信頼」における看護を提供するです。重要課題の「急変時対応の獲得」に対して、年間計画に急変時シミュレーション実施と除細動の勉強会を計画しました。9月に、除細動の理解を深める為、勉強会を開催しました。講師は、臨床工学技士さんで、とてもわかりやすく説明して頂き、実際に除細動に触れ、知識を再学習することが出来ました。

回復期リハビリテーション病棟の夜間は3人夜勤です。急変時シミュレーションも3人夜勤の設定で、心停止の発見から救命までの一連の流れを実施し、振り返りでは、メンバー間（看護師・看護補助者）での声かけが少なかった、実際の急変時に心臓マッサージが出来るか不安だという意見が出ました。

今後は、不安に感じている内容を再確認しながら、自信に繋がるように、トレーニングを計画していきます。



ACLS講習を受講して

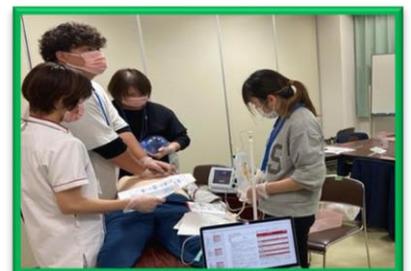
4階西病棟 松永

ACLSの受講を通して、急変時の対応について自分がどれほど未熟であったのかを痛感しました。たくさんの事例を通して、患者に何が起きているのかを考えながら、確実に情報をとることの大切さを身に染みて感じました。研修を始めてすぐの時には、自分の中で先入観を持って挑んでしまったために、想定外の事態が起きると、フリーズしてしまうこともしばしばで、情報を整理しながら急変の対応をすることはとても難しかったです。回数を重ねるにつれ、チームでの連携も図れ、スムーズな対応を行う事が出来るようになっていく姿は、自分だけでなく、チームとしての成長を感じる事が出来ました。

今回の経験を臨床で活かすことができるように、学んだ事をもっと自分の中でかみ砕いて理解をしていきたいと思いました。

回復期リハビリテーション病棟 大山

11/26・11/27の2日間にわたりACLSの講習を受講しました。以前は、急性期病棟に所属しており急変も多くありました。その際に指示を待つことが多かったり、対応に戸惑うこともありました。今回の講習では自分がリーダーとなり、チームメンバーに的確に指示を出さなければなりません。指示を出す難しさを感じつつ、患者発見時の対応から患者の考えられる疾患を絞りこむための情報収集、また異常波形を読み取り波形のアルゴリズムに沿った処置の実施・心肺蘇生が効果的に行えているのかなど多くの事を学びました。またチーム内での連携の重要性を再認識することが出来ました。今回の学びを実践の場で活かしていきたいです。





看護協会主催：「看護職員認知症対応研修」を受講して

3階東病棟主任 満園

当院の入院患者も、高齢で認知症を抱えている方が多く、日々看護を実践する中で自分の関わりについて疑問を抱いていました。

今回、研修を受講する中で、認知症の基礎知識、事例を通じたケア介入方法を講義で学んだことで、これからの認知症患者に対するケアについて自信につながる事が出来ました。研修で学んだことを、ブロックカンファレンスなどで発信し統一したケア、認知症患者にとって安心できる環境の提供・安全安楽な看護の提供につなげていきたいです。また、現在、病棟内では、認知症回診の活用が出来ていないと感じる為、まずは病棟でせん妄ハイリスク評価・アセスメント行い、多職種間の連携を意識し関わっていききたいです。みなさんと、看護を語りましょう。

「消化器内視鏡の基本と介助の実際Web研修」を受けて

外来 有村

消化器内科で3年9カ月勤務し、内視鏡検査に携わり検査を通して経験や知識を増やしてきたつもりでした。検査中の患者さんへの細かな配慮、使用する薬剤についての注意点、緊急時の機器取り扱いについてこの研修を受ける中で、これまでの検査介助の振り返りや改めて注意すべき視点や気付きもありとても良い研修内容でした。

内視鏡検査では上部・下部・膵胆管とそれぞれの特性があり検査や治療における看護の実際について分かりやすい説明内容で理解が出来ました。研修を受けられなかったスタッフへもDVD視聴を促し今後もチーム間で情報を共有し、患者さんが安全・安楽な検査が受けられるように、検査の介助に付き理想的な看護の提供を目指していきたいです。

これからの目標は、これまでの経験を活かし消化器内視鏡技師試験に挑戦して取得出来るように努力していきます。

「ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム」に参加して

4階東病棟 辻

2/17.18の2日間でELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラムに参加しました。私はエンド・オブ・ライフ・ケアと聞くと緩和ケアと思い、癌患者の事を思い浮かべました。しかし、エンド・オブ・ライフ・ケアの対象は疾患を限定していないことが特徴であると知りました。私が今所属している4東病棟にも肺がんだけでなく慢性心不全や呼吸不全などさまざまな疾患の患者が入院します。講義やグループワークを通し自分のケアについて振り返り知ることができ、エンド・オブ・ライフ・ケアにおけるアセスメントが不十分であることを改めて感じました。また、ロールプレイを行うことで、他者とのコミュニケーションの難しさやコミュニケーションを取る上で「患者の言葉を黙って待つ」ということも大切であるということも知ることができました。

今まで緩和ケアの患者と関わる際戸惑うことも多く患者・家族が望むようなケアが提供出来ていない、自分は何も出来ていないと思い、落ち込むこともありましたが、しかし、エンド・オブ・ライフ・ケアにおいて看護師は「何かをする」ことだけでなく患者や家族と「共にいる」ことが重要であると聞き、今後も患者・家族に寄り添い続けられるような関わりをしていききたいと思いました。シシリー・サンダースの『あなたはあなたのままで大切です。あなたは人生最期の瞬間まで大切な人です。ですから私たちはあなたが心から安らかに死を迎えられるだけでなく最期まで精一杯生きられるように最善を尽くします。』この言葉を胸に今後もエンド・オブ・ライフ・ケアについて学び知識をつけ、患者・家族に少しでも質の高いエンド・オブ・ライフ・ケアが提供できるようにしていきたいです。





ミニナラティブ



外来 成枝

私は、患者・家族が、「この病院を受診して良かった」と思ってもらえるような対応をいつも心がけています。先日、患者の家族に「息子が高校生の頃、お世話になった看護師さんだ。あの時は本当にお世話になりました。」と笑顔で声をかけられました。お話を伺うと20年近く前に交通事故で当院の救急外来へ搬送されたとのことでした。ほんの数時間の関わりの中で、心の片隅に覚えて頂いていたことをとても嬉しく思いました。外来では患者が安心して診察・治療を受けられるように、特に救急外来では少しでも早く検査・処置や治療が受けられるように、他職種と連携し、時間と闘いながらケアに努めています。Patient（患者）には、《耐える事、忍耐強い》という意味もあります。私自身も入院を経験しましたが、「これを乗り越えなければ、家には帰れない」と思いながら、入院生活を過ごしていました。耐える患者に少しでも共感し、寄り添えるような看護師として、今後も頑張っていきたいと思えます。



マイブーム

4階西病棟 種子島

私のマイブームというより老後に向けてやりたい事、すでに始めている事を紹介したいと思います。ここ数年コロナ禍で制限がある中、楽しみを見つけようと思い色々実行しています。『既に実行しているもの』を紹介します。キャンプ（焚き火に癒される）、麻雀（奥が深く面白い）、アニメ（鬼滅をきっかけに色々見るようになった）、ゴルフ（腰が痛くならない程度に始めた）、占い（完全に趣味極めたい）、FX（時価変動のみ見てる）です。

『60歳までに習得したいもの』は、バイクの免許取得、ピアノで戦場のピアニストを弾けるようになりたい、動物の保護ボランティアです。

時間をかけて、60歳までにゆっくり習得したいものです。皆さんは何を始めていますか??おすすぬめがありましたら、是非教えてください。



編集後記

毎号、原稿のご協力ありがとうございます。コロナ禍の中、様々な制限をしいられていますが・・・ワークライフバランスを大切に、楽しみを見出しながら、目標達成に向けて日々取り組んでいけたらいいですね。 松下

